WASON HQ 1 .J4 594+

Apr. 27 1889

女學雜誌

一冊六錢　版權所有

當府内無郵税　各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾九號)四月廿七日發

社説

惩風の事業、社會改良の事業

論説

女子の文學(其二)(池袋清風)

批評

紅葉山人の「色懺悔」(其二)(藤の屋)

叢話

人を知る法○國民之友第四十八號文學と自然○婢○國手百難を愈す○旅のはた(其六)(むらさき)

佳傳

ジョン、グレー姫の傳(樂痾散人譯)

小説

理想の紳士第十二回(月の舍しのぶ)

寄書

女學雜誌第百五十七號寄書欄内「胸の鏡」道德法律關係疑問に答ふ(佐々木笑受郎)

新報

行啓○不純潔の言行意思、不純潔に對するの言行意思○數百年來の家業を擲うつ○學校生徒の煙草○舞踏會解散○氣槪主義と貞女論○昨年やストライキの饑饉なりし○文秀女王殿下○其他數件

外報

婚姻世話婦○ブース夫人○アメリカのフレーベル○サンドハースト夫人○廢娼會

小供談

不親切なる馬の話(宮規子譯)

附錄

百人一首講義○女子本讀○婚姻説

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 159. April 27th, 1889.

EDITORIAL :—Temperance Work.

LEADING ARTICLES:—Woman's Literature. (Mr. K. Ikebukuro.)

CRITICAL NOTES:—Iro-Zange.

MISCELLANIES :—"Study of Man." "Literature and Nature." "The Maid." "The Good Physician Curing a Hundred Diseases." "Disgraces of a Journey." (concluded).

BIOGRAPHIES:—John Gray.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

CHILDREN'S COLUMN.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くなり、亦如くなるべし、亦如くならんことを望む。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に知られんと欲せば先づ女學雜誌に知られよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の教師、案内者、相談相手たるなり。

●珊瑚の珠

○文人の感想

蒼頡書を作りて鬼神夜泣くと云ふも其實は覃思推究幽を釣り微を極めたるを形容したる筆の妙なり大約昔しより鬼神を説く處多くは此義を以て覽るべし此れ文章に於て化躰の法とも謂ふべきなり昔し都良香は文章の達人なり一日羅生門を過ぐるとき氣霽風梳新柳髮を吟じけるに樓上に聲ありて氷消浪洗舊苔鬚とつけたり良香菅公に謁して此詩を自讃しけるに公の曰く下句は鬼詞なりと云へるも亦此類ひなるべし（意ふに此話菅公の一語よりなれるか）去れば紀貫之が古今の序ヨ目に見えぬをに神をもあわれと思はせと書たるなど皆な物理の妙を形容したるなり漢の劉向書を天祿閣に校したるに太乙黎を燃してこれを照らし楊雄は夢に白凰を吐くと見て詞賦愈工みになり江淹は夢に五色の筆を得て文藻日に進み李太白夢に筆花を生じて文章珠玉の如く其外晉の王珣、梁の紀少瑜、唐の李嶠の徒皆夢に筆を得て藻彩益す發したりと云ふ又江敎督が曲水の宴の序を書て夢に政を得たる或は村上帝の琵琶に於ける博雅三位の笛に於る等の如き皆な同義なりと知るべし。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百五十九號　明治二十二年四月廿七日發兌

社說

○矯風の事業、社會改良の事業

余は聲音の甚だ低きゆえに從來總ての公開演說の委頼を謝絕したり。然るに過る二十日婦人矯風會の總會に於ては是非とも一席の談話をせよとて强いて懇望せられ止を得ず微き音を以て平生の覺悟を述たり。後に之が筆記を見れば極めてくだ／＼し、委しく記するの用はあらずと云つて其の大畧を掲ぐ、蓋し編者としての余は演說者としての余と別人なり、何如に贔負してもくだらぬものは載せられもせず。

万國史を見れば國家興廢の跡、哲學史學術史を見れば文學起伏の跡、歴然として存す、然して其の方向は皆な進步に向ひたり、何れも進步したり。

然らば道德の事に至つては如何ん、極めて曖昧にあらずや、成程悪しき風俗は漸やく減ぜしが如し、左れど一個の悪風俗減ずれば更に異樣なる他の悪風俗を起し、悪の根は依然として只だ其の木風が違ふのみ。道德の事は文明と共に進まぬものか、見よ田舍のおヂーさんおバァさんは反つて堂々たる政事家よりも德に富み、開化したりと誇る西洋人は必らずしも我日本よりも德の高きにあらず。左らば道德あるものは如何なる進步を爲すぞ。

斯樣に曖昧なればいろ／＼の異說起る、概するに三つの異論あり、左の如し。

道德は進みもせず退きもせず、一盛一衰左れど同じ事。

樂園は昔しにあり堯舜は去つて反らず、道德は退ぞく。

否な／＼世は惣べて進化するあり、道德も必らず進む。

斯く三つの說がある、扨矯風事業改良事業と云ふものに骨を折る輩は先づ之に付て篤と考へねば成ぬ、矯風の矯と云ふ字は悪き風俗などを矯めると云ひ、凡そ矯めると云へば一本の木を矯るすら中々でない、况して大社會の悪風を矯めるには非常の勞苦です、勞苦する前には能く考がへねば成らぬ。

譬へば、汽車は動かぬものだ否や動いても亦た元に歸るものだと云ふに、汗水を出して推し遣るのは詰らぬ。

叉た滊車はぢり／＼と進む然し乍ら死かげの谷、斷崖絕壁の方に進む、遂に奈落の底に陥いるのだと云ふに、中でぢだんだを踏んで反れ／＼と泣いても無効です。

然し乍ら若し汽車は必らず進むものだとあつて、現に非常の勢ほひで進んで居るものであらば、汽車の中で一生懸命に走つて夫れで早く横濱に着かせたいとしても無益。

斯う思へば矯風事業に骨を折るのは何れにしても無駄です、

爲ても益に立たぬホンノくたびれもうけです。

然し之は元と誤まつた說て、世の道德は必らずしも止まつて進退せぬものでもない、又必らずしも退くと云ふものでもない、左りとて又必らずしも進むと定まつたものでもない、或は進むともある、退くともある、又一定して進みも退きもせぬともある、悉とく其時の事情次第です。

然れども例すれば樹木の如くで、或は枯れもする又伸びずにも居る、若くは又た常の如く成長もする、固より色々であるが然し皆な伸びると云ふ性質を持つて居る樣に、人の德も社會の德も同じく亦た伸び得ると云ふ性質は持つて居る、然し只だ自然には伸びん放つて置いては成長せん、光に當て水を灑ぎ養を肥せば伸びる。スレバ矯風事業は實に大切です。

扨て今の人も社會も決して伸びて仕舞つたのではなく、之から伸びねば成らぬ又た伸び得とする所ろのものである、故に世上の植木師たるものが之を伸ばさねば成らぬ。

之から伸さねば成らぬ、伸ばさねば成らぬと云へば、今はまだ伸びずに居るので即はち尙ほ不完全なのである、今が不完全と云へば完全は後にあるので即はち此の不完全を早く改めて速かに完全に到らせねば成らぬ、黃金世界は未來のもの、天國は近づけり(別言せば後にある)、ダーヰン等が云ふ如く追々に進化せねば成らぬ。

余はパラダイスや堯舜の時代が左樣に立派な世であつたとは思はん、人類が昔しよりも大ひに墮落したとは思はん、然し夫は兎も角、今は決して絕望の世でなく眞とに有望の世で、古人が代々いつも〳〵「世は末になつた」と云ふよりも、寧ろ「世は未だ來ない、到らない」と云ひたい。

議論すると物が入組んで來る、議論は詰らない、先づ手近かを見ると、人は誰れでも行ひより考が高い、即はち何人も斯したい彼したいと云ふ理想が先にある、之は未だ來ない未だ到らない善事が前途にある故でせう。左らば此の人々が集まつて居る社會に於ても亦た、斯の如き未だ屆かない未だ達さない所ろの善事の理想があらう、必らずあらう、左樣に覺る者は所謂るソーシアル、コンシエンス(社會の良心)ソウル、チブ、ゼ、ステート(國家の靈魂)で、之に據て見れば、改めねば成らぬ矯めねば成らぬ進めねば成らぬと見へる者が、世の中に實に多い。

夫で此の社會の理想、良心、たましひに吹込まれたものが仁者義人の淚となり、慷慨となり、道の爲の死となり、千古の

歴史を貫ぬく尤も爽快なる一長路の精神となる、之は社會大進化の預言者、覺醒者、最先の先陣で、決して老子の云ふ如き不吉なものでない。

而して一個人の身の上でも、其の紫を着け金殿玉樓に居る爲でなく、たゞ其の理想にいよ〳〵近づき眞心靈魂の火が尤とも熾んなるときが第一の幸福なる時節で、眞の善事は此の時に於て出來る。一國に於ても左樣で、彼の社會の眞心たましひが大ひに發輝し、世上の道念が尤も熾んとなる時、之が國家の最大幸福の時代なり、故に矯風事業、言ひかへて社會の道德を召さまし起し立てるとは經世の爲に實に大切。

斯樣に社會は善に進み得る者だが、獨りで自然に進むものでない、必らず骨を折つて進めねば成らぬ、力の出る所ろなくて進行すると云ふ理法がない、推さねば動力を與へねば滊車は動かぬ、既に動けば軌道坦々たり。左樣に勉めていよ〳〵善に美に良好に進化せしむると云へば、惡しきものは必らず消滅せねば成らぬ、進化の裏は消滅で、惡が滅するゆへに善が進むので、筒井順慶の同伴は斷じて六かしひ、進化は公平なものでナマケものに麵包を棚より落さず、寐て居るものゝ果報を償ひなしに與へず、サッサと劣るものを敗つて優るものを勝たしめ、人も國家も遠慮なく亡滅せしめて、扨て最善最美の方向に到着せしむる。

然らば何如に日本が神洲で萬國の兵隊よりも多い八百萬の神があつても、然し惡るければ滅しねば成らぬ。先づ日本人を見よ、コロポックグルも消滅した、土蜘蛛長髄彦も消滅した、アイノも今では北海に消滅しつゝある、吾々大和民族だと云ふても何も威張るとが進化の力を威しつけるとは出來ん。昔し藤原氏は歌計り詠んだ、鬼神は泣かせても平家には負た、然し平家も奢るとき風前の燈びに似たり直ぐに壇の浦で消滅した、源家は何如にはびこつても慘逆なれば甘く北條氏に取られた、然し北條氏も足利氏も信長も太閤も、三百年間の德川氏の幕府も、すでに弊を生じ不德を生ずれば遠慮なく消滅する、殷の亡びし日は周の起りし日で、進化にエコヒイキはない只だ善に與みす。

然らば今の日本人でも若し優等者に負けなば北海の濱に追つめられもしやう、尙又日本國朝の命脈も此度は將軍の起伏盛衰に止まるのでなからう、最早外國との競爭となりました。斯て目を擧げ今の日本を見よ、太平を歌う聲はある、然し其歌は決して火災の保險にならぬ、昔しノアは洪水の近づくを

知つて大船を造らせたが、船大工は之を造り乍ら洪水の來るを知らん、船は出來、大工は卒業して酒を飮で祝ひ、ノアは船に這入た、洪水汎濫、大工は酒を徳利に遺して水を飮んで死んだ、諸君はノアの日を擧て日本を見よ。

第一、今の日本には

眞實、正直　　敬虔、謹嚴

此の二種の徳が實に無なつた、交際、政治、文學、と云ふ如き公けの舞臺を見れば直ちに分かる、天津橋上にホトヽギスを聞く耳があれば直に分かる、悲歎に堪へない。

凡そ一個人の尤も强いのは何か、金でない、智慧でない、身分でない、千万人と云へども我往んと云ふ眞實正直の良心である、眞實正直は總ての徳を生む、剛毅、敢爲、忍耐、獨立、自由、快活、皆な之より來る。」又一個人の尤も大なる事業を爲すは矢張り同じく金、智慧、身分でない、第一に大切なが敬虔謹嚴の精神である、古來の大偉人を見るに皆然り、敬虔謹嚴は固きシツクヒの如し、骨の如し、多くの美質之より生ず、勉强、謹愼、謙遜、儉約、質朴、自治等は皆な此に生ず。一個人にて既に然り、一國も亦然り、不正直、不眞實、不敬虔、不謹嚴の國家は必らず亡ぶ。

何の世にも矯風者、改良者、改革家なかる可らず、然し今の日本には特に無かる可らず、今に尤も必要なる者は才子佳人にあらず、熱心くらふが如き、火の燃ゆるが如き矯風者。

扨て此の矯風者となるには四ツの覺悟を要する左の如し。

一　仲間の少なき事。もし多ければ既に改革者にあらず、醒し手は少なく眠り手は多き筈、仲間の少なきほど彌よ改革を必要とす、目は小さきものぞ然し大ひなる全身を導びく。

二　騷動を起こす事。改革すれば多少の騷動を起さねば成らぬ、マホメツト云く樂園は劍の陰にあり、ナポレヲン云く戰爭は文明を起す、キリスト云く地に泰平を出さん爲に我來れりと意ふ勿れ泰平を出さんとに非ず刄を出さん爲に來れり。

三　反對者に出遭事。すでに騷動を起し、人の眠るを醒し、人の行くを止め、嫌ふを引張る、反對者に出會ふとの多きは勿論、風に逆らひ波に向ふものなればなり、汝爾もし世の屬ならば世は己の屬を愛すべし然れど汝曹は世の屬にあらず我れ汝等を世より選びたり之に由て世汝曹を惡む。

四　理想を確定せよ。進むものは前途をシッカリと望め、絶望す可らず、固く信ぜよ、目的なき船頭は客を何處にか導かん、汝曹貞固くして勵めよ、志は主に由りて爲す事業の決して徒らとならざれば也。

さて婦人は美の粹、和樂の元素、太平のエンジェル、道德の保護者なり、矯風の事業、社會改良の事業は特に婦人の任なり、願くは諸君先づ高潔なる理想を確持し、堅固なる信仰を懷き、勉めて今時の不完全、不都合なる惡風を矯正せよ、慈善は家より初まる、遂に出でゝ社會に圓滿すべし、諸君が道德上の慈善心はたゞ家にて止るべきものに非ず。

論説

○女子の文學（其二）　池袋清風述

此妙法は一天無二一子相傳で、御一新前なら上下着用乾と禮物でも持て來人でなくては、容易に敎へられませぬです、今日でも輕々敷は申しませぬ、若し御聞きなされたいなら私が愛する梅花女學校の生徒さんですから申しませう、五寸の筆鋒で天下をかきまはすことです、今同志社男女生徒が　聖上三陛下え御對話申すとは至難の事でせう、然に此生徒が詠じた歌は　三陛下も御滿足に思召れ、殊に　皇后宮には歌道御熱心日々淺瀨の波を御樂み遊さる云々報知が侍從官より參ました、斯樣に己の感情や思想を、未だ逢もせぬ天下の人に向て十分吐とが出來、舊習を改め時弊を破り、社會を益するは皆文章の力です、此力ハ唯英書や、和漢書を讀て智識を增たばかりでは得られませぬ、外に師に就て自ら筆を取て學ばねばなりませぬ、而して此業は男子より女子に能適して居ます、然るに實際今日の女學校を見ば、中々男子の靴の紐も結ばれませぬ、女學雜誌や貴女の友などあるも、其編輯者も印刷人も投書家も大概皆男です、斯樣皆々男子から御助力を受辛ふじて其雜誌ハ行はれて居ます、男の新聞雜誌ハ夥しひが、僅に二三の女の雜誌あるに是も男の御世話になりて家政の事から育兒の方法に至るまで即ち婦人事務の領内まで男が踏込み論説投書したるを婦人方ハ甘じて御學になるとは些と殘念ではありませぬか、若男に勝りたる婦人記者が陸續起て、男子の專領して居た文筆界の半分でも、婦人の領分内に取込論文なり小説なり書て出なら、男ハ喜んで讓りましようが、哀しひとにはまだないです、中にも此妙法を度外視する樣な處ハ或主義で立た京阪神の女學校です、此學校ハ英學の智識ハ餘程進んだ、其癖

に和漢の文章は些と御留守の方か知らぬ、失禮ながら此等の學校の生徒さんの御手紙を拜見しても分る、年齡は二十內外級は四年五年生で、英書なら六ヶ敷歷史哲學書等でも解する人の文面に男子なら十二三歲の小學童子が書た位な者があります、二三行に一二字は成て居ぬ字もありました、世間の無學な親爺などが見ますと三年も五年も學校には入て居てこんな手紙だ、己が娘は學校にはやらぬ、やらぬでも此位の手紙は書けると申します、其筈です女生徒諸君がカントの哲學や、ミルトンの詩を御讀なさると云事は知ませぬから、斯樣に通常の手紙すら出來ぬ事ならどうして名文筆で世人を感動さするとが出來ますか、さらば事業も演說も文章も皆男子から致されて、女生徒諸君は英書を讀だと云ばかり、人に因ては腰が高くなりたか知ぬが、別に其れ丈の益が餘り見えませぬ、成程或る人は歐米に遊學して一の專門科を得とか、又一の私立女大學校を立るとかの御企もありましょうが、皆そう云譯にも行くまい、そこだから私は先年或る女學校米女教員に向ひ、今少しく和漢の學課を加えたひと申しましたら、米女は頭を打振り「此學校に來る女生徒は和漢學を爲す積でありませぬ、英學の目的です」と申しました、カ樣一言で打切て仕舞へば夫れ切ですが、能く我國今日の女子教育を考へて御覽、成程女子教育は近年進んだと申すもの丶まだ〳〵男子の明治元年です、父母は安政年代の者で、女子の學問など不用と思ひ、又學問などさすると高慢になりて仕方がなひ、又益がありても直に他に嫁するから學資を入れては損毛だなどと思ふ者澤山です、又偶開けた父母がありても學資と年間（御婚禮の時節）の乏しき處から出來ませぬ、又漸く辛抱して都會の學校にでも送りますが、五年卒業を待ち長く思ひます、之を卒業してから又和漢學の爲めに他の學校に五年も八年も送る人は高官や流行醫等の娘でもなくちや出來ませぬ、が、それも十余年も學問しては婚禮の時も過ぎますから、百人中十人もなひ位でせう、外の人は五年卒業して家に歸り、成程英學は出來たが論說や著書は能く出來ず、和漢書も能く讀ぬから朝起たときに父母に向ひ「グードモーニング」と云ふても分かるまひし、横文字で手紙を認ためて親類の御婆さんに送りても不都合でせう、そこだから今日の女學校は智識を得る爲めの英學を爲すと同時に其の得た智識感情を顯はす爲めの和漢文章を教へ、一通り不都合のない樣にして卒業證を與ふるが來學の女子に對しての義務です、然とも米女專斷の學校は、米女自身に知

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る事ばかり教へ、日本女子に必要な事も自身に知ぬ事ハ頗若しませぬ、偶日本教員が示談しても中々我儘で聞入れハしませぬ、併し彼方の資本で立た學校だから仕方がない、故に或學校などハ務めて男教員の分子を除き、女教員も其卒業生のみです、英學にハ進歩しても其智識を活用する活潑優美なる和漢文章等を世に出すハ随分困難でせう、蓋和漢の文章を習眼女に示しても猫に小判でせうから。

今此梅花女學校に於てハ此等の點に於て最も緩です、是が私が此校生徒諸君に向て御門出度祝賀致す所です、即ち今日自由の世に適したる自由の學校です、此學校だから望月兄も御出になりましたでせう、直に此與文會も立たです、是まで梅花女學校の事ハ平生多忙春ながら忘れて居りました所に、不圖餘香が袖にうつりましたから懐かしき餘りに、

津の國の浪花の春ハ夢ならで
　あしまの風も梅が香ぞする

サア是から題意の女子の文學の事に立入りて御話し申上たひが、余り長くなりまして皆さんも御退屈でせうから、次回に譲る云々

右ヲ駁擊シテ本間重慶氏ハ實ニ左ノ如キ大意ヲ以テ述ベラレタリ。

(前略)池袋氏の議論ハ、六七年前に於てハ或ハ可ならんも今日に在てハ已に陳腐に屬す、青年女子ハ泰西日新の學を修めて新奇なる事を知らざる可からず、……若し池袋君にして今少しく英書に通ずると深からしめば、斯る議論ハ吐露せられざりしならんも、惜哉氏は茲に出ずして遂に此論を爲されたり、…………日本の事ハ重に昔に屬するものなれば、吾人ハ寧ろ英學を學ぶ可きなり、故に余ハ諸君が此説の爲に心を痛る事なく、熱心英學を研究せられんとを希望す云々○(完)

批評

○紅葉山人の「色懺悔」(其二)　藤の屋

さて次に趣向、是も一向に新らしくない。二人の尼が奇遇物語は古人も度々使つた工夫にて今更に其陳套を襲ふも餘りに知恵のあさ過る咄だ。早い處で二人比丘尼や、三人懺悔冊子——誰も知てるが——仝じ趣向で、文庫十九號の「やまと昭君」に馬琴の盆石皿山記と暗合せしと斷られし御叮嚀なる紅葉子にも似合ざる事と存ず。紙帳に張つた書置は大晴なる御工夫あるが是も酷に評すれば餘りに奇に走りすぎた樣である。全躰此本は凡てドラマチック、ファクトにして小説としては無

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

理──その上に詞を淨瑠理風にせられし故丸で芝居かと思ふ處あり例へば十八頁に

（そんなら今夜から姉上樣…）見かはす顔…見詰わふ眼

（い…い…妹）

とある如きは最甚しきものにして人情を穿ちしは申分なけれど小説としては面白からず。これ計りか地の文少なく詞澤山──わけてアサイド澤山にして小説としては頗るダレル氣味あり。中にも戰塲の卷は──ファクトと云ひ──どうしても芝居たるを免かれず。縱令時代小説でも芝居の臭味が有ては困る。種彦や仙果の作つた合卷物は大抵芝居の趣向にて具眼者は常に惜で居る、馬琴すらも折々芝居じみた事を挿むで折角の苦心を大なしにした。それに此新文學界に生れて其缺點を襲うとは何事です紅葉さん。

夫からポチポチとダッシの多い事は眩ゆき計りなり。硯友社員の…好はいづれその中説明仕ると此著者が曾て曰はれたが其例證に「色懺悔」の出來しものか。…も隨分肝心ですがア、澤山では閉口する。悟の惡き僕の知己曰く「色懺悔」中の人物は悉くどもりかト。情なき事かな、金玉の高作をけなしつけるとは、是も…の出しやばり過ぎし故と存ず。以來控へめされ汝…よ。

爰に一言申度事あり。小説を綴にはキャラクター──こそ肝心なり。此「色懺悔」には何れも此肝心なるキャラクター──を缺きしと覺ゆ。遠山左近之助を除くの外は芳野も若葉も殆んど區別に苦しむ、諸共に端美人──京人形にしてトント活きた處なし。紅葉子は三馬とヂッケンスが好きと聞きしにこゝには何故氣が附かざりしか。

文章は一種妙です。「京人形」とは又一風變つて妙だ。惡く曰へば極彩色の凧繪、氣韻さらになし。僕の友人曰く平手義太夫を速記法にて筆記したるが如しト。

シカシ「京人形」と違ひ全篇通徹して居る、ダカラ有がたし、それでもチヨイトをかしな處がある。芳野が紙帳の書置を見てハテと首を傾けしのみか若葉の物語を聞きても氣が附かぬとは頗る迂濶だ…守貞に嫌はれるも無理はない「娘芳野は知る通りの不束者」とはサスが遠山──子を見る事親に如かずトハ確言。離別の塲は壓卷だが前後して居る樣だ又たヒシヨンとしては判然すぎる、壓卷の出來でも全篇より云へば無用の塲なり。

末ながら申さん。紅葉先生曾て夏木立及都の花を評されし時

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

美妙の髯題目は有がたくなしとのたまはれしが「色懺悔」の扉の御自筆は一ト際有がたく思はれたり。例へば先生の蜀山風は美妙の髯題目よ優るとも——否ェ優るには相違ないが斯る批評法は御謹みある方然るべし。

兎に角く一夜の物語とせられしはお手際、無類無類。一字一涙の御趣意丈けありて讀者は一同に泣きました。僕も其一人、涙をこぼしながらかくは記しつ。紅葉先生の嫌はせ給ふ京童の隨一人籐の屋妄評多評。

叢話

○人を知る法

みどり

是空子は男女相知らずと云つて切りに慷歎せらる、因て余は人を見るの心得一箇條を說くべし。

余は好みて西洋名家の文詩を讀むとなるが、讀み行く時章句の佳絶なる所ろに至れば悉とく鉛筆にて線を印るし付ける、是は異日亦た此の佳絶の所のみを復唱し屡ば之を樂しみ讀まんとてなり。然るに不思議なるは、他日再たび之を讀むとき余が感味甚だ前日に劣る、前には激賛を極めたりし妙所も、此時に至つて讀めば味わひ往々索然たり、恰かも香氣殆んど飛散し、たゞ其の餘香を強いて糢糊の内に覔むるの心地す。」

之を何故やと云ふに、其理極めて面白し。凡そ文章詩歌には全篇を貫ぬける美なる感想あり、其感想は章句を追ふて漸々に高まり進み、遂に勃然として制しがたく發し、燦然として消す可らず光かる、然れども其の此に至れるは漸次にして一高又一高遂に極頂に達するなり、左れば讀むものも亦た初めより之に隨つて感じ來り、いよ〳〵激し、いよ〳〵熱し、遂に禁ず可らざるに感銘して思はず案を叩く、此に於てか此の案を叩きつる箇所に或い印るし或は評言して後の記臆に備ふるなれ、故に讀み來りて此に於て感發したりと云へども其の感發するに至りたるや因縁素と微にして甚はだ遠ほし、左るを他日復唱して只だ此の感發したる箇所をのみ再讀し、而して前より續くべき許多の美想を合せ得ざれば、扨こそ其感味の斯くは貧しくなるらん。嘗て綿布の製造所に遊ぶ、場に入れば先草綿を整ふるを見る、次に綿球を剝ぐを見る、次に綿毛を分くるを見る、次に種を壓取するを見る、而して此等の製方皆大器械にて巧みに壯大に仕掛けたるなり、尙之に次で綿毛を紡ぐ所ろ、糸にする所ろ、編む所ろ、遂に百車千轉廻して反々うねるが如くに出で來る所ろあり、見去り見來り、余は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此に至りて快叫したり、嗚呼此の美なる綿布は初めの彼の粗なる草綿より來りしかと。余は之が成るの順序を見つるが故に此如く感歎したり、左れど直ちに此の終極の綿布のみを見る人は思ふに余の如くには感歎せられまじ。故に人を見る亦た如此くすべし、只だ其の行を見るは未だ可ならず、先づ其の行ひの如此くに至りたる道線を見るべし、髮を斷ちてレプタ二つを投ずるも、奢れるの殘貨二つを投ずるも同じき寄捨なり、左れど人は之を同等なる人物の行ひとは申さじ。此を以て人を知らんとせば先づ其行ひの由る所を察せざる可らず、此れ人を見る第一の秘訣。

○國民之友第四十八號

文學と自然

しのぶ

余が心は兼てより「文學と自然」と云へるとに付て鬱積する所ろあり、近時の文學社界を見ていよ／＼歎ずる所ろ多かりしに、最新の國民之友を讀むに及んで最早一言したくなれり、若し夫れ細密の論辨に至りては他日更めて申すとあらん。

民友子先づ（論の大躰よりして觀るにあらず一例として其一句を引くのみぞ）曰く、

然らば則はち微言婉辭なる者は何れより來れるとするか、言論の不自由之が誘因たらずんばあらず、若し微言婉辭を以て文章の趣味多きものとせば、其趣味なるものは實に言論不自由の爲めに製造せられたるものと云はざる可らず。

次に局外生なる人、時事新報と女學雜誌とに質して曰く、

兩記者は賤女中には「美」存在せずとする歟、おかるの役を扮すれば技藝の「美」消失すると思ふか、……然れども有識なる兩記者——殊に平生美術を口にする女學雜誌記者が如此き奇怪千万の變說を吐く實に怪訝に堪へざる也、梨園社會の人々よ、此の如き變說に迷はされて團十郎の痴愚を學ぶ勿れ。

嗚呼、文學美術に關する今の輿論は大略如此し、余は平素根底より如此き議論に反對せざるを得ず、今ま先づ其の大要を述べんに、抑そも

最大の文學は自然の儘に自然を寫し得たるもの也。

極美の美術なるものは決して不德と伴ふとを得ず。

然るに實際に醜くきものも之を寫せば美しくある、之を美しくする所ろ即はち文學美術の長とする所なれと云ふものあり、

余が考へには之を大ひに誤まれりと信ず、抑そも實際に無き者を何如に製造せんとする乎、若し製造し得たりとせば是

れ一時假設的の者、到底永續するを得じ、人の智識は悉く自然より發す、人の德も悉く自然より養はる、人の美のみ安んぞ亦た之より來らざらんや、余が信ずる所によれば日本の詩人歌人に俗物極めて多く、畵工亦尤も卑し、特に日本人を擧て美術心に富りと云ふに至ては抱腹絶倒也、日本近世の文學美術は尤も多く製造的彫刻的假設的に傾むく、一言するに自然に反す。

春の舍君なりしと覺ゆ、數年前小説に付て余が右の如く云へりしを笑ひて演説せられたるに、

自然を寫すく\と云へど、茲に古池に飛込む蛙を見て

ガサく\、ガサく\、ドブン

と云つても何も美術に適ふまじ。

如此く云はれたり、然し此れにては器械的の運動と音とを寫したるのみ、未だ神韻を寫せりと云ふ可らず、神韻は是れ自然の尤も美なる粹にあらずや。

大略此類の信を懷くを以て、實際に美ならざるものを演劇に仕組み、之を舞台の上にて見るが故に則はち美となれりと信ずる能はず、文章に付ても繪畫に付ても同じき事也。思ふに彼文學上、インスピレーションを尊とみ、至情を尊とみ、飾らざるを尊とみ、止なくして發するを尊とみ、激し鬱勃し慷慨して發出したるものを尊とむの說、期せずして「自然」の儘に「自然」を寫せとの本理に適したり。

故に余ハ「書目十種」を通覽して、絶望したり更に大落膽したり、今の文學者に何んぞ輕薄不眞實の嗜好多きぞ。左れど森田文藏氏の部には、

若し小生が目下の境界を以て言はゞ博愛と申すうち吾が嗜好の土台は其文の信なるを取り候。

其他勝安房氏の靈玄眞渾なる說、植村正久氏の日本在來の文學に失望云々の言、大ひに余を喜ばせたり、廢寺に高僧を見る如く心地せり。

○婢

ゆきひら

母と樹下に戯るゝの夢を破り、起きて襷をして汝の自由の幾部を縛しめよ、風寒し冬の朝、今暫し母の懷にありて溫め玉ふ孃の夢を動さぬようにに、徐かに塵を掃き、汚れを拭ひ、扉を開きて有明の月を入れよ。

鳥は嘔ふ、春深くして花紅なりと、聞とを休めよ、虫は吟ず、秋靜にして月圓かなりと、聞とを休めよ、汝の手は翠を拾ふの手にあらずして、衣を濯ぐの手なり、其指は高き臺に樂を

調ふるの指にあらずして、夜深く襤褸を刺すの指あり、等しく是れ一柄の匙、彼は樂んで嘗め、汝は苦んで濯ぐ、運命は寧ろ偏頗の如しといへども、惠みになどか權衡のあらざらんや。

見よ、汝が多幸なりと羨む孃の裾は、責任とゝもに輕く飜り、學校に、野外に、劇場に、フートボールにガーデンパーテーに、及び其他の公會に向て進みつゝあり、されど未だ其一歩だも、ホームを形造るべき責任の外へとては出る能はず、彼は一躍して想像の境遇に飛んとす、されど現有の境遇は彼を捉へて叫ぶ。

絹もて縫ひし忍びの袋の如何に綻び易きよ、巖の上に安置せる殿堂と想ひしホームの、波風荒き洋中に浮沈せる小艇あることを悟りし時の如何に失望の深さよ。

と、而して汝は知らず知らざるの間におゐて、此失望と危險より免れ得べき、即ち尤も多幸なる、ホームの造り主たる資格を供つゝある事を知りて感謝せよ。

殊に感謝せよ、四隣人定り鐘聲沈みたる夕、濃かにして切なる感情は、汝を延ひて故山に到らしめ、暗淡たる孤燈の影に父母弟妹の俤を映じ出し、人知れず袖を濕して彼等の安全を禱りしときは、天の使はいと淸き音樂に和して高き御坐に捧げ玉ひしぞや、オ、可憐の少女汝若し涙あらば感謝の爲めに濯げよ、而して余に權利あらば乞ふ余をして其涙痕を拭はしめよ。

○國手百難を愈す

潮田淸子譯

瑞士國のラングナウ村にミッヘリー、シュッパッハとなん呼ばるる國手あり此國手ハ人々の病苦を愈やすのみならず總て人事百般の難やみとし言へは請ふに任かせて治療し最とも不思議に効驗ありたれば門前日に市をなし其名は遠近に聞えけり或時一人の婦人來りて其身の不幸を歎ちける樣妾の所天は何故か妾を惡くみ妾の事とし言へば何にまれ聞き咎め言葉の中に毒を持ち舌の頭に針を挿し根も葉もなき事柄に雷の如き聲を上げ稻妻の如き眼を輝かし晝夜の差別なく妾を罵り妾を叱し時として鋼の如き拳もて妾を責め折檻し日より月月より年と一年三百六十日の其間片時とても辛らき目見ぬはなく妾が天授の命數は盜賊ならぬ妾が良人に奪ひ去らるゝ心地し侍べる何卒良き治術もがなあらば敎へ賜へかしと國手は婦人が其良人の行爲に付き網羅餘さず僅かに言葉の終るを見其多辨なるに驚けり頭を傾けて暫時思案の躰なりしが莞爾として婦人に對ひ言へけるに和女の不幸左程と思ひ遣られたり幸ひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

余に一良法あり必ず和女を困危の中に救ひ申すべしされ共和女若し細大余の命に從ひ賜はずば不幸更に一層の大となりぬ可し婦人言ふ其事に限り決して掛念し賜ふに及ばず妾亳厘も違背仕らじと國手是に於て立て藥室に入り一瓶を取り盛るに井水を以てし苦味にして無害なる液二三滴を其中に注ぎ再び出で來り婦人に告げて言ふ若し和女の良人事に觸れ怒りの撲樣見ゆるときは和女直ちに是れを凡そ水呑に半分程口に含み耐え能はざるに至る迄は決して吐出すなかれ又決して飮み込み賜ふな而して其の含むと久しければ如何なる猛き怒りとて雲霧の晴るゝ如く散り失せるならん其時始めて水を口より吐き賜ふ可し此の如く毎に其場合を所置し賜へば長く怒の癖を聽くとなからん又怒の眼を見るとなからん而して和女の命數亦良人の爲めに奪ばはるゝとなかる可し婦人は此奇藥を得挨拶さいも愴惶に吾家を指して歸りけり程經て再び來り言ひける樣其方樣の妙藥著るしき奇功侍れりされ共未だ全く妾を罵詈の苦域より救ひ出す迄には至り侍らず國手言ふ然らば以前より强味に處方すべければ尙一瓶服藥し賜ふ可し而して此度は必ず一時間を期して含み賜ふ可しと婦人乃ち醫師の命を盟ひて去れり一二日を經て又來り言ふ妾彼の調劑を得仰に從ひ一時間含みし以來良人の怒り易きの疾は遂に全く癒えたり是れ全く國手の賜物なりと深く國手の勞を謝し其術の妙を稱贊したり。

○旅のはじ（其六）　むらさき　戯稿

思わぬ來客、シカモ河田の仇敵、取次ぎをしてよいか惡いか山岡さんが居らしつたらアノ方は活潑だもの吉川さんや小芝さんが幾人來たつて負はしないが河田さんはおとなしいからソシテ先は何となく恐しい劍幕顏付がいつもと違て‥‥私の手紙に付て‥‥ハテ何か氣にさわるような事を書たかしらん思案に胸を苦しめましたが思ひきつて、

おあがんなさいまし‥‥一寸と此で

廣くもない上口の傍にある四疊半に導て軈て少走に以前の所へ立もどり

河田さん大變よ‥‥河田さん

何ダネーおみち‥‥どなたダイ、エ山岡さんが‥‥

イーエソーヂヤーないの‥‥山岡さんデハナイノ、吉川さんデスモノ‥‥小芝サンが私の今朝上た手紙に付て是非河田さんに遇たいつて四疊半に吉村さんが居るの‥‥おかさんドーショー意地の惡い人達だから、

幾人いらしつたノデ何方かサツパリ分りませんよ……チヤント御言ひナチ……おみち……オイ……ソシテ何だつて四疊半へ通したのダローチー、仕方のない子ダヨ

イーエよろしう御ざいます、わざ〳〵尋ねていらしつたノデスカラ御目にかゝりましよう

デモ河田さん……私の手紙が……

お前何かそゝうの事をおしてはないか……エ

イーエ唯だ一寸と手紙を

河田は立て四疊半の方へ行キマシタ、跡は母親と美智子計り箸の上下に心配するが母の心况んや此の場合、我子の過ちで他人を害する樣な事が有てはと思へば心配せずには居られません、

お美智……何の手紙をおかきだい……エ……何か出過ぎた事をおしではないか、モシ河田さんに迷惑が掛たらドーおしだい、おつかさんは始終云はないこつてはない……人樣の前では女らしくしなければならない謹みが肝要ダツテ、ソレニ……

デスケレドモあんまり皆さんが……

サーイクラ皆さんがドーあろうと御前がなまじの事をして大事におしだつたら折角學校の先生方がお心を無にすると云ふものデス……何ダカ泣き聲がするジヤーないか行つて御らん……ツ……こまり者ダ子ー、サー河田さんがドーカなさりはしないか……泣たつて仕方が……本當に此子は……お前マー何が悲しくツテ御泣ダイ……エ……

四疊半は狹ひデスが人を許す時子の心は……

ソーデシヨー……私が向島からのちは皆さんに何も御話した事もないソシテ始終病氣勝デスから部屋に引込て居る方が多いのデスモノ……何か相談を願ひ度にも山岡さん位ですからつひ子ー……それに母が死にましたと云ふ報知を得ましてからモーがつかりして何も樂しみがありませず……それにいろ〳〵自分の足りない事を知りますと死でゞも仕舞たらと思ふような愚な考もしば〳〵出ましたデスカラ何も世に慰める者がありませんで實にツレンドも……

今に成て考へれば本當に御氣の毒樣デ何とも……いろ〳〵御迷惑になるような事も申して……

山岡さんに對する感情も仝樣デシタ

河田さん萬事ミステーキです、私は今日に成て實に殘念で

堪りません、つまり學校を思ふと云ふ考へが全くないノデはありません、その心がある爲めに知らず不正の方法を用タノデ、そうするとだん／＼と事物を判定するの力が迷路に走タノデス、デスからあなたのなさることが萬事私共の感情を害する樣にのみなつて來て從てジエラスの精神もアングリーする事も度々起る樣になつのデス、

吉川さんのおつしやる通り、迷たものですから本當に申すもお恥かしひような…實に　言を申したノデス、

イーエ皆さんそんな事をおつしやテハ困りマス…私が本當にすべて足りません故に……イーエそのミステーキは私が起しましたノデス、私も及ばずながら學校を思ふ者でございますから何卒いたして皆さんが御心の解けるようにつまり不和の源因は私ですから私さへ此の學…

ダカラ困るノヨあなたがそんな事をおつしやると私共はドーシタライヽデシヨー

玉野先生の手紙を見て亦先生の性質を知て曉り得ノハ山岡さんやまたあなたの事デス、向島で共同したノモ實は私共が發意デス水谷先生の事みな私共が心に不平と思ふ事は殘らず校長さんに申述たノデス…ソシテ教場でも同先生に向て…實に申譯のない事をしたノデス靑ひ眼鏡で見て居ました故萬事靑いように見えたノデ…本當に

ヂー花田さん…ドーヅ許して下サイ

マーよく分て下すつテヂー、本當につまる處は互のミステーキです、そしてよう其性質を分解して見ますと最も僅少なる事が其源因となるノデス、ロツキー山上の泉は其末流に千里の違ひを生ずるとか云ひマスが一歩を過た結果は非常な不利益を一身上に來たします一身上のみならまだしも學校の上實に敬愛する教師の方々の上に迄及ぼすノデスカラ、ドーカ御互に謹んで、夫はそうと一寸とおみちさんが上げたと云ふ手紙を拜見してもイーノ

エー御らんなさい、見て下さる事を願ひマス

時子はいそぎ開き見る其文は片假名まじり、讀下しに一寸と骨が折れます、いそぎ／＼て認めしものか脫字も多いようデソシテ談話の通りデ女學校にある小い生徒の文章は大抵こうだそうデス

My dear sisters.

私は此間家へ歸た時庭の梅が散てしまつたのを見た時になぜ梅は私の歸るのを待て居て呉れなかつた折角見ようと思

て歸たのにモー散てしまつたと思て失望しました、家の梅デスラそうデスカラ、河田さんが國へ殘されたおかさんが死だと御聞なすつたら悲しかろうドンナかと思て居マス、河田さんはモーおかさんニ逢へません梅の散る位デハありますまい、ソシテ此頃大層痩せてシマイ青い顔をして居ノを御存じなのそれを色々の事を謂て御いじめなさる故氣の毒デタマリマセン、私はドウゾ〱〱〱皆さんが互に中よくして下さる事を願ひマス、ソシテ吉川さんや小芝さんは玉野先生をいろ〱と惡く御しやるようデスガ玉野先生は皆さんの事を思て毎日淚をこぼして居らつしやるそうデス、スコシハ御察し被成タラト思ヒマス、玉野先生は河田さんばかり愛して、皆さんを憎む方デハアリません邪推デ事物を極めるノハ眞デないと先生が御しやりました皆様は何卒〱邪推を止めて下さる事を願ひますでしようデスカラ

私は姉さん方を愛しますからどうぞ私を妹と思て愛して下さい決して怒てはイヤデスヨ山岡さんの事も考て下サイ、私は正じきで決してウソを吐きません山岡さんは愛のふかい人です私の病氣の時始終枕邊へ來て慰て下さいました私はイツモ二三デスから悲しさうな人を見ると氣の毒てたまりませんドーゾお時さんのような人を慰めて下サイ決して惡口や何かを云てはイヤデス、これから家へ歸つておかさんの顏を見て來ますからうれしうございますグードバイ

妹の
美智

愛する〱〱〱
皆々様

時子の面は輝き渡り吉川等外三人は何となく慚じらふ色がありマス、時子は

本當に神はドーシテかく純潔な幼兒を世にマー‥‥それがまたドーシテいろ〱な惡を‥‥不潔な考を抱くようになりましよう罪の勢は本とうに烈しい事‥‥私共の望みは高きエルサレム‥‥人はインペルフエクト、ビーイングですから仕方もないが

時子は滿面既に喜色溢れ、襖を開て。かけ來る美智子引寄せて

吉川さん奥へ參りましよう皆さん、モー山岡さんも御いでいしようから

始めから終り迄意味が貫徹いたしーませんのみならす萬事妙な處がありますソレヲ味て下サイつまり女學校の穴探しーデスー。

佳傳

○ジョン、グレー姫の傳

桑郷散人譯

ジョン、グレー姫は紀元一千五百三十七年の御出生にして「ドルセット」侯ヘンリー、グレー第一の御姫君也母はマリー、チウドルの御姫君にて「フランシス、ブランドン」と申し英吉利王顯理第八の御妹君ありかやうに此姫は英國の王族にて御歳若の御連枝に渡らせらるればもし顯利第八に御子孫わらせられざる時は王冠を受け續べき御方は此姫の御姉君に渡らせらるゝスコットランドの女王マルガレットこそ當然なるべけれ、姫は御兩親の別業に御生長遊ばし其頃は王族の中相當の御位を續ぐべき御方の此の姫の外に猶多く在しますにより王位の御相續などは何人も存じ寄らざることなりき。

姫は天成の麗質にして其眼の圓くして温和なるは其意ざまの順艮にして悍からず然も物事に屈せざる御氣質を顯はし給へり猶ほ其の意思の純正なることは殊に著るしくして姫の御いとこ君なる女王「エリサベス」の侍講「ロッシェル、アスシェム」と申す人は親しく姫を識る者なりしが此の人姫の事を人に語れるに其擧止の端正にして謹み深く凡べて勞働を厭はず兼て種々の才藝に長じ給へること女子として實に申し分なく又フランス、イタリヤ語にて談話すること自然自國の語にて談話すると少しも異なることなくして又ギリシヤ語にて余に語れることも屡ありき其手蹟は殊に美はしく且法に適ひ給へり余は常に此の秀才女子の眷遇を受けしこと淺からざるにより日耳曼に出立する前一日「レセステルシヤ」の「ブロゲチー」に行き姫に別れを申し上げしが其日は姫の御兩親なる公爵御夫婦には一家中の貴女紳士を從へ公園に出獵ましませしかば姫は只獨り書室にありて「ギリシヤ」の「ヘードン、プラントニス」と申す書を讀み給ひて居たりしが讀方の巧なることは紳士が「ポーケース」の中の面白き章を讀むに等しかりき。

かくて訪問の禮も濟み四方山の話の序に姫には如何あれば今日公園にて御獵の娯みを取らせられざるにやと申したれば姫は嫣然として余に語れるやう公園の娯樂は此の書の中の樂に較ぶれば只幻影とのみ思はる嗚呼衆人は眞正の樂みの如何あるものかを悟らざることよといひ給へりそもかゝる高尚の御樂みは女子など中々得難き事にて男子にても僅に達し得べきものなるを姫には如何にしてかく深く渡らせ給ひしにやと申したるに姫の申すやう其の譯を今御身に語らん恐らくは御身が之を聽かば驚き給ふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

抑も上帝が此身に嚴しき兩親と深切なる教師とを授け給ひしハいと有難き事にて兩親の御前に在りてハ語るも默するも起居進退より裁縫遊藝踏舞に至るまで其の外何くれとなく樂みにまれ悲みにまれ一々仰せに從ひ爲さゞる可らずもし些少にても違ふときハ嚴しき御叱りを蒙るのみならず折々ハ手荒き御責に遇ふ事度々あれども御兩親の面目に拘はる御事なれば推して申し侍らぬにこそされば親愛深き教師「エレメル」君の許に行くまでハ此の身ハ地獄の中にあるやうに苦しう覺ゆれども出て師の許に在る間ハ萬事を忘れて只物學ぶ事のほか餘念なきももし呼び戻さるゝ時ハ毎に泣き倒るゝほど悲しく覺ゆ凡べて妾にハ何事よりも讀書ハ樂みにて其の餘の事ハ只此の身に煩はしく難儀に思ふといひ給へり。

姫ハ「エドワード」第六世と御同年にして御教育をも倶にせられしが「エドワード」皇子ハ篤實なる御若君にましませども學業の御進歩ハ姫より劣り給ひけり惟其頃英國に傳りし新教をば倶に深く御信仰遊ばせられたり。

一千五百五十三年御弱年の「エドワード」王にハ御不豫なりしかば人心ハ惟御跡繼の事のみ苦慮するに至れり此王の姉君に渡らせらるゝ「マリー」と申す姫君ハ最も近き御相續者なりしが深く舊教に歸依し給ふにより王ハ遂に首相「ノルツムベルランド」公の議に從ひ王位の御豫定を變更し給へり抑も「マリー」幷に「エリサベス」の兩皇女ハ曾て國會にて王位の御相續者とあるべき權利なき御方なりとして布告され給ひしを御父王の御遺言にて御相續者の列に加り給ひしかども猶國内を退去すべき一條の法令あり「スコットランド」の「マリー」皇女に對しては舊教を奉じ給ふのみならず外國に在ますにより格別の御評議に及び給はずかゝるをりなれば「ノルツムベルランド」公にハ此の二皇女を退け給ふ事の難からざるを知り其年の五月公の第四子「グヰルホルド、ダッドリー」公の夫人「ジョングレー」姫を以て王位を繼しめん事を企て給へり「グヰルホルド」公ハ「ノルツムベルランド」公の一味の御方にて王もし崩御せば「ノルツムベルランド」公ハ是によりて長く首相となるべき事と知られたり。

此の威權盛にして不正の政事家「ノルツムベルランド」公の大望も初の程ハ事全く成就したるやうに見えたりかくて重き病に臥し給へる「エドワード」王ハ自ら深く新教を奉じ給により御姉妹の兩皇女が舊教に歸依し給ふを恐れ國内を退去せしめ給ひジョングレー姫を以て御相續者と爲し給ふべき旨を御遺

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言遊ばし遂に其年七月六日に崩御し給ひかくて「ノルツムベルランド」公には其月の九日に他の貴族を伴ひ姫の住み給へる「シチン、ハウス」に到り姫を傅きて女王と爲し給ひ姫は今年御歳十七歳に滿たざる妙齡にましませば女王となる御事など中々存じも寄ざることにて今此仰せを聽き給て痛く歎き恐れ思はず前に跪づける貴族の膝下に倒れ俯し御舅なる「ノルツムベルランド」公に向ひ兩眼に御涙を浮べて申すやう何卒住馴れし此の別莊に永く止まらしめ給へと一向に願ひ參らせしが「ノルツムベルランド」公と「ダッドリー」公とは斯る大望を遂げんとする慾念熾んなるがうへに此の兩家には常より姫を深く愛しみ養ひ參らせらるゝにより今より女王として傅き奉るとも別に憚る所なきにより姫が樣々に理を陳べて辭み給ひしも遂に聞き入れ給はざりしかば姫は力なく其議に從ひ御一族を伴ひて「トウェル」の宮に赴き給ふぞ哀れなる。

かくて姫が今より女王となり給ふに付き强みとなるべき事は舅君「ノルツムベルランド」公が政府にて位高く御威權も亦熾んにして兼て一軍の指揮官にて在します事と姫は新敎を信じ給ふ事と前王「エドワード」の御遺言を奉じたる事どもなり。又弱みとする所は國人一躰に正當の御世續を奉ずべしと申す事と「ノルツムベルランド」公の不人望なる事と舊敎の徒は「マリー」皇女に歸服しけるも新敎の徒は却りて「ノルツムベルランド」公の誠實ならざる事より自ら姫をも疎んじ參らする事どもなりき。

是よりさき「ノルツムベルランド」公は王の未だ崩じ給はざるに先ち「マリー」幷に「エサベラ」の二皇女に使を以て速に參内して王に拜謁し給ふべき由王の仰せなりと申し送りしが實は二皇女の參内を待ちて之を囚へ奉らんとの企ありしかば二日の間王の崩御の事を秘して密に二皇女の參内を待ちたり。

かゝる折しも「マリー」皇女は此時暫く都に御逗留遊されて在りしが親友より王の崩御の事を密に告げ參らせければ公けの御訃音なきを驚かせ給ひ直に「サホルク」まで御退きありしが其處に數多の軍兵速に馳せ集りて專ら守護し奉つり其勢都合一萬二千人にて龍動指して進發せりかゝる知せを聞き「ノルツムベルランド」公には敵の半數に滿たざる軍兵を率ゐて邀へ戰ひしが其空虛に乘じて都に一揆起りて「マリー」皇女の御味方に應じ遂に新王「ジョン」の父「サホルク」公に迫り「トウェル」の宮を引渡さしめたり「サホルク」公は姫の許に到り皇室の御儀式と女王の御飾りとを取り除かしめ給ひ姫に向ひ意を

慥にして此大難を忍び給へと申しゝかば姫は從容として御父に對ふるやう只今の御辭は初姿を强て此位に登らしめたる仰よりは實に悅ばしき事に覺え候前には御父母の仰せ故に曲げて從ひ參らせしが今は却りて意易しとて直に御位を退き翌日「シイチン」の庵室に籠居し給ひけりされば此姫の在位の間は僅に十日に過ざりければ世の善人の不幸を以て詼謔の種とする輩は之を「トウェルブ、クイン」(十二日女王の義)と謂囃せり。

かゝりし程に「ノルツムベルランド」公はマリー方の軍兵の强勇なるに當り難く勢ひ盡きて其子婦「ジョングレー」に代ふるに其敵マリー皇女を以て女王と稱へ奉つるより詮術なく遂に囚はれて獄に下り大叛逆の罪によりて首を刎られたり。

かくて「マリー」女王は今女王と成給る御威權を以て「ジョングレー」幷に其一族を囚へて獄に下し給り不幸にも哀なる御姫は「トウェル」の宮に送り反されたりしが此頃まで九重の春深く住給る宮殿も今は一身を幽する獄舍と變じ遂には死出の旅路の悲曲をも演出すべき舞臺となるも程遠らず見にけり。

女王「マリー」は頑にして悍き御氣質なれども姫の御位に昇り給ひしは止を得ざる事なりしは能く知り給ふのみならず御齡も未だ若く且つ御近親の間なればゝ後には御赦免あるべく見えしが其年の秋一揆の騷動起り是が爲にマリーの御位も一時危ふく見え給ひしを姫の御父「サホルク公」は既に御赦免ありし身を以て輕々しくも此一揆に與みし給ひしかば女王の御怒り甚だ强く十一月三日に姫の御夫婦を大叛逆人として審問すべき詔を下し給ひしか兩人とも死刑と定まり只其執行の期を定めざりしが女王は此事より物議を引き起さん事を恐れ給ひて翌年の二月八日に「グヰルホルド、ダッドリー」幷に其妻「ジヨン、グレー」を死刑に處すべき委任狀に署名し給へり嗚呼此二人の死刑によりて當時人情の淺間敷かりしを知るべし。

其月の十二日の朝「トウェル」宮にて死刑を執り行へり「グヰルホルド、ダッドリー」公は愛妻「ジョン」に最後の面會を請ひしが「ジョン」は兩人とも今死に就くべき身にして面會せば末期に未練を殘さんことを恐れて遂に之を拒み給ひしがやゝありて姫は其夫が宮門を出で斷頭場の方へ赴くを見たりしに間もなく窓の前を鮮血に塗れたる死骸の蔽ひもあく車の後に載せて通り過ぐるを瞥見し給へり。

「ウェストミンスタイ」の僧正「フェケンハム」は能辨にして意銳どし去ど其性質温良なる人なりしが或時姫に向ひ舊敎に改宗せよとて說勸たりしに姫は厚く新敎を奉じ給ひ僧正の說には

少しも感動し給はず却りて其しとやかにして待遇の深切なる爲に思はずも僧正は一日の休息を得給ひしと申したりきかく貞靜なれども決して輕薄の傾きあらず曾て「ハルチンク」といへる者が改宗したるに付き一書を贈りし文辭甚だ恭順にして其中自ら嚴正の意を含めりといふ其死刑と定りし時父君に贈れる書に妾が無罪の血は當に上帝の前に於て其冤を訴ふべしと云へる其辭優にして沈痛悲哀の情言外に顯はれたり。

又姉の「カザリン」に贈りたる「ギリシヤ」文の遺書は文章の巧あるによりて歐洲の學者を驚かす程のものには非れども末期に臨んで意思亂れず高尚なる感情を少しも傷ふことなきは感ずるに餘りあり。

其刑に就くの朝自ら手帳にギリシヤ、ラテイン、イングリスの三樣の文を記載せしが其中英語にて記したる文に曰く「妾が犯せる罪を罰すべきものとせば妾の弱齡なりしと注意せざりしとは多少罪を謝するに足るべく上帝幷に後世の人は必ず妾が死を憐むことあるべし」と記るされたり。

姫は「トッ エル」宮の中にて御最後を遂給へり是は他の場所にて衆人の目に觸れ自ら人々の哀憐を引越すときは朝家の爲に惡しき事と「ヘンリー」第七世の御血統に渡らせ給ふにより餘人とは扱を異にせるなり。

姫は斷頭臺に登り天を仰ぎての給やう「妾が女王「マリー」に對る罪は妾の意に於て潔白なることを無心なる者が犯せる罪の如し惟强迫の爲に出でたりと爲すは自ら承服する所なり」

嗚呼かくの給ひしこそ道理なり十七歲の妙齡女子が止を得ず義父の命に從ひしゆゑに親族の一女子の爲に死に處せられ剩へ其國民は自ら誇りて宗敎を尊び法律を重んじ高尙の氣風ありと稱しながらかゝる處置を怪まざるのみならず是に同意したる如きは暴君の史乘にも未だ其例あるを聞かず殊に才藝文學に長じ婉柔にして至孝なる妙齡女子が情を仰へ冤を吞んで刑に就きしが如きは聞く者をして坐に哀淚を灑がしむ嗚呼其死は美名を後に傳へ却て當時の史上に永く汚點を殘しけり。

茶づけ

田舍の客人來り「どうぞ茶づけを一ぜん振舞て下さいといふかしこまりましたとは云て見たが折あし／＼飯がなしやう／＼櫃のすみをかきあつめて一ぜん盛て出しけるをじきにかつこんでしまいもふかへろと云ふだらふと飯を一つぶヅヽ拾つて喰て居れどもかへろと云はずさすが遠慮してコッチから出しもせずもぢ／＼して茶漬茶碗をひねくりまはし是はよいお茶碗だいつおもとめなされましたと云ふさかみさまが飯びつの蓋をあけてこれと一所に求めました田舍の客「ハヽアさやうならお茶を下さりませ。

ためしぎり

あるお侍あらみの刀をさゝのへきれ味をためし見んと柳原へ到りのぶせりの非人を見つけてひとかたな切りかけしにこの非人キヤツといつて打ちふしたり侍うう／＼にかけて歸りしがどふも心もとなく今一たびためして見んとそのあくる夜また／＼柳原へ行きこそ／＼あろくと非人どもみつけてコリヤ。コリヤみなおきぬかゆふべのお侍がまたたゝきにうしやアがつた。

小說

（本號余白に乏しく此の欄を省く）

寄書

○女學雜誌第百五十七號寄書欄内「胸の鏡」道德法律關拶疑問ニ答ふ

佐々木笑受郎

女學雜誌——日本の賢母、良妻たる女學雜誌、第百五十七號、寄書欄内に「胸の鏡」てふ題を以て、竹内春子さなん呼ひなせろ姫の、道德法律關拶疑問に答へん、去れども、笑受郎は、固さ、倫理學者にもあらす、又、法律學者にもあらされは、姫に滿足を與へまつる克はす、寧ろ、謬誤あらんかも。

一、吾人ノ救濟主クリストノ敎ユル所ハ、吾人々類ノ永生ノ靈魂ノ、當ニ陷ルベキ慘憺タル境域ヨリ救ヒ出シテ、幸福ナル天國ニ導クニ在リ、即チ、之レヲ稱メ救ノ道——宗敎ト云フ、然レド、又、完全無欠ナル道德法トメ見ルコヲ得、狹ク而シテ、其基トスル所ハ——爲ラレント思フ所ヲ人ニ爲セ——ト云フニ在リ、孔子ノ敎ユル所ハ之ト異ニシテ、其礎ヲ——己レノ欲セザル所之レヲ人ニ施ス勿レト云フニ取ル、此二箇ノ原則ノ區域ヲ、一伸シ、二伸シ、三伸シ、遂ニ千伸スルニ至リテ、遙キ差異アルヲ見ル。次ニ之レヲ一縮シ、二縮シ、三縮シ、遂ニ千縮シ盡スモ、相合スルヲ見ズ、之レヲ要スルニ、各一派ノ敎義ナリ。今、甲ハ乙ト旅行ノ途次、天災ニ逢ヒ、二人ヲ容ルヽ克ハサリシ一小堂ニ、之レヲ逃レントセシトキ、乙チ突キ出シテ、雷擊ノ爲メニ死チ致サシメタル甲ノ所爲ハ、タトヒ、乙チ殺サントノ念毛頭タモナク、全ク己レチ守ラントセシモノナリト雖ド、クリストノ敎ユル所、孔子ノ訓ユル所ノ道德ノ原則、兩ナカラ守ラザリシモノニシテ、道德上ノ制裁——己レノ如ク他人ヲ愛セ——アリ。

二、元來、約束ナルモノハ、互ノ合意上ヨリ成リシモノニシテ、之レヲ實行スベキ期ニ至ルマデ、又、互ニ成就サルベク維持セサルベカラズ、而シテ中途、承合ノ許サヽル限リハ、之レヲ一方ニ解ク克ハサル勢力ヲ有スルモノナリ、夫レ、婚姻ハ、人生ノ最大要事ナリ、之レガ爲メニ結ビシ契約……合意上ノ契約ハ、承合ノ許サヽル限リ、姦淫ノ故ナラサル以上ハ、決シテ之レチ破ブル克ハズ、又、死ノ至ラサル間ハ、消滅スベキモノニアラズ、然ルニ、此等ノ理由ナシニ、違約セシハ、道德上、人ヲ欺キシ罪アルモノナリ——隣人ニツキテ僞リノ證據ヲ立ツル勿レ——。

三、期限——成文的ノ期限ハ、已ニ經過シテ、成文律上ニハ其義務ナカルベキモ、天法律上ノ期限ハ、辨濟セサル限リハ、或ハ、辨濟スベキ理由ノ存スル限リハ、共ニ延引シ行クナリ、尙ホ、其正條ヲ得ントナラバ、吾人ガ、生レナガラニシテ胸ニ彫刻サレタル良心——法律チ翻ケ——天理ハ伸縮シ得ベキモノニアラズ、人間ニ、——則チ法律上ノ强制ナキガ爲メニ、其義務ヲ果サヽルハ、充分道德上ノ責アリ、

四、友愛アル甲某ヨ、汝ガ、朋友ノ大病ノ爲メニ、悄然病床ニ橫ハルヲ見シ時ニ、如何ニ汝ノ胸ハ動キシヤ、如何ニ汝ノ心ハ悲シミシヤ、思ヒ頂子デ汝ノ愛苦ハ、床中ニ呻吟スル汝ノ友ヨリモ甚シカリシナラン、爲メニ、汝ハ、良藥ヲ尋ヌルニ寸暇ナカルベシ、其時ニ當テ、乙某ノ良藥ナリト、汝ニ告ケタリシ時、如何ニ汝ノ胸ハ靜カナリシヤ、如何ニ汝ノ心ハ喜ビシヤ、右ニ藥チ持チ、左ヲ、友ノ憔セタル眉ヲ支ヘテ、起サン爲メニ與ヘシ時、汝ノ眼ニハ、已ニ全快シタル如ク見ヘシナラン、然ルニ、豈ニ圖ランヤ、豈ニ又圖ランヤ、之レヲ服用シタルガ爲メニ、汝ノ親愛ナル友ハ、黄泉ノ客トナラントハ、汝ガ夢ニタモ尙ホ思ハザリシ事ナリシナラン、之レヲ見シ汝ノ眼ハ、如何ニ紅涙ヲ濺セシヨ、汝ノ胸ハ、如何ニ强キ打チ爲セシヨ、又、汝ノ心ハ、如何ニ大ナル悲ヲ持チシヨ、且ツ、汝ノ唇ハ、聞カサル彼レノ耳ニ、如何ニ慘タル叫ヲ與ヘシヨ、終リニ、汝ハ地ニ伏シ、天誅ノ來ルヲ待チシナラン、去レド天ハ汝ヲ憫ンデ罰セス、天、口アラバ必ズ汝ニ告ケシナラン——汝ハ、己レノ如ク汝ノ隣ヲ愛セシ、而シテ、汝ノ短キ智慧ハ、汝ノ友ヲ殺セシヲ、然レド、汝免ルベキ責ヲ持タズ——ト。

五、食ハセラレタル河豕——法律ノ禁物ナル河豕ハ、喰ヒシモノヽ、三寸ノ咽喉ヲ樂マセタリ、寄送者ノ、美味ヲ分タントスル少カナル愛ヲ以テ。然レド一ケ月間ノ中毒、彼レヲ苦メタリ、寄送者ノ、法律ノ網ヲ潜リシ思心、己レ中ラズト雖ド、毒魚ナルヲ知リテ其名ヲ告ゲザリシ欺心ヲ以テ。彼ハ固ヨリ、法律上、及ビ道德上ノ罰責ヲ免カレサルベシ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報

（此の欄内自由に轉載を許す）

○華族女學校へ行啓

皇后宮陛下には去る十八日午前九時華族女學校へ行啓遊ばされ親しく教授の摸樣を御覧あり生徒一同へ「美かきのしたくさ」一部並に折入御菓子を下賜あらせられ午後三時還御遊ばされたり當日は常宮殿下にも同校に御成あり皇后宮陛下へ御對顔在らせられたる由に承る。

又皇后宮陛下には本日上野公園内第三回內國勸業博覽會建物に於て開かるゝ日本赤十字社第三回總會に臨御在らせらるゝ由。

○不純潔の言行意思、

不純潔に對するの言行意思。

此の二つの區別は篤と考へ置かれたし、世上には往々此を混淆して、不純潔に對する正大なる行爲をも亦た不純潔となすものあり、如此き輩からこそ實に僞善者なれ、試みに思へ社會に尤も嫌惡すべき人物あらんには則はち一日も速やかに之を除き去らんとするこそ君子の純潔ならめ、斯る人物の事を口にするは耻かはしと言つて獨り聖人らしくスマシて居らん者は、吾人は時わつてか之を偏屈なる仙人とは言ふともある べし、之を以て社會に存する活人民中の聖なるものとは決して見做す能はず。聖書には姦淫、而も畜類に等しき程の最醜なる姦淫の事をも記したり、然れども聖書は斯る記事を記るせしを以て不純潔の書とは成らぬなり。彼のバツトレル夫人が二十餘年一日の如くに梅毒檢査條例を痛論するや、世人は女子が如此き不潔の事を論ずるを以て禮なしとせり、思ふに是れ多少の欠禮にてやあらん、然れども吾同胞の住居する現世界に吾同胞が見る如き罪惡に陷いり居るを顧みざるは抑そも有禮有德の事と云ふべきか。吾人が時々廢娼の論を公けにするを見て之を女學雜誌上の欠點とするものゝ如きは、實に是れ社會に對するの責任と、眞誠の道德とを知らざるもの也、彼の道德のナヨ〳〵したる、虛禮の僞善に入る如きは共に吾黨の斷じて取らざる所ろ也。

○數百年來の家業を擲うつ

伊勢古市の貸座敷油屋は、むかし油屋のおこんと云へるものありし以來に有名なる妓樓たり、然るに其主人は此頃ろ左の如き廣告を爲し、斷然として數百年來の家業を放擲したり、

轉業廣告

拙家義多年貸座敷營業罷在候所彼のあぶらやおこんの演劇にても御熟知のごとく祖先開業より今に殆んど三百年の星霜を閲し候事に御坐候然るに先年より思ふ所ありて一日も早廢業いたし度者と常に希望いたし居候得共數百年仕來りの營業故一朝其運びに至りかね荏苒時日を經過いたし候

所今や幸に素志を遂るの機會に遭遇したるを以て斷然廢業いたし更に旅人宿相始取扱ひ向は諸事懇篤を旨とし宿泊料は精々廉價に相働き營業可仕候間舊來御愛顧を蒙り候縁故を以て伊勢兩宮御參拜の御方々其他當地方御漫遊の諸紳士陸續御休泊の榮を賜はらん事不堪懇願候敬白

伊勢古市　あぶらや

○學校生徒の煙草

竿と愚とを荷ふものは文明時代の魚釣ならん、然れども夫よりも更に馬鹿〲しきは少年の煙草を吸ふ也、一端に吸口一端に愚、天秤にかけて輕重なし歎くべき哉。文記者は去年十一月各府縣の學校々長に質問を寄せ、密かに學校生徒の喫煙何如んを問合せたり、今ま其の答案を集錄したるものを見るに云く、

高等學校中にて喫烟を禁止するは只だ福島縣尋常師範學校と秋田尋常中學校。校舍内にて喫煙勝手なるは只だ大分縣尋常中學校他は皆な湯呑所又は扣所に限る。漸次に禁止せんと期するは東京府長崎縣。

平均數によれば喫烟者の校中に存するは百人中三十三人六七。尤多きは東京なる第一高等中學校百人中五十三人、七〇也　尤も少なきは岡山縣尋常中學校百人中六人七九也。

○舞踏會解散

中止解散と云へる語は何んとなく物凄き意味あれども、近來言論の自由はいよ〲寛濶となり、亦昔しの如く度々膽を寒くする知らせもあらざりつるに、彼の海軍の文人諸君が催され來りし丁亥會（重もに舞踏會）は此際頓かに中止解散と和成りし由、但し此は政府の嚴命ありし故にあらで、只だよく自から發心せし故とは申す。

○氣慨主義と尊女論

在米國留學の友人藏原蘇岳より書を編者に送りし中に、

余は日本將來の英華と光明は正しく日本婦女子の胸中に含蓄するものと信ずるなり而して之を養育し其の英華をして開發して爛熳たる光明を放射せしむるものは日本固有の氣慨主義と西洋發明の尊女論と合併したる智德兼備の教育を以てせざる可らざるを信ずる也而して尤も肝要とする所ろは即はち日本人天稟の氣骨を保存發育すると甚はだ注意せざる可らず過去の日本は兎も角將來の日本は務めて萬端の事をして日本風味を帶ばしめ日本人の魂魄をして徹頭徹尾日本魂たらしめざる可らず今日萬事開進變遷の日本に在て

は日本人民固有の元氣骨相を失はざる様に熱心從事すると は日本今日の學者となり敎育家となり宗敎家となり政治家となり先導者とあるもの、寸刻だも忘却す可らざると也君には此等の事は夙に御承知と存ずるが故再言するは無用なれども余が米國在留中觀察して感觸する所のものは他なし以上陳じたる小言に過ぎず其他に尤も日本將來の性質を養成發達するに必要なるものは日本人民が二千六百年間に生活運動したる其の活世涯記(歷史)を編輯し之に付するに二千六百年間の意識と智力と眼目と手足と鼻舌口耳とを以てし日本將來の人民と肝膽相照し意氣同一の者たらしむるの急務なり之を約言すれば日本の歷史を哲學社會的上より研窮し今日の人民をして之を實用せしむると也。

○昨年はストライキの饑饉なりし

無くて目出度は一揆暴動して職を罷むる彼ストライキと云ふものあれ、然るに昨年は米國に於て特に之が凶年なりしと云ふこそ寧ろ祝すべき也、即はち一昨年は八百七十二回ありて之に關係せし人數三十四万五千〇七十三人ありしに、昨年は減じて六百七十九回となり關係せし人數も亦廿一万一千〇十六人なりしと云ふ、然るに其のストライキの利目は年々に增すとても申すか去年中に成功せしものは二百五十五回にして二割九分は目的を達したり、一昨年は成功せしもの三百六十八回にして二割四分の靈驗ありし、然るに此の騷動の爲に日を潰せしと一昨年は一千〇二十五万三千九百二十一日(凡そ二万八千〇九十三年程)昨年は一百五十六万二千四百八十日(凡そ四千二百七十五年半程)なりし、嗚呼差引して幾干の利ありしか吾人之を知らず、然れども止を得ずんばいつにても騷がざる可らず、騷ぐとは活潑の運動、一種の元入あり。

(米國ブロードストリート報告)

○文秀女王殿下　同殿下には今般御出京にて去る十六日午後一時伏見宮へ到着せられたる由。

○貴婦人の遠乘　乘馬練習所に於ては貴婦人の馬術が追々上達せしを以て目下の好氣候に際し市外へ遠乘を試むると定め日々敎員附添にて數名宛出馬せらるゝ由。

○大日本婦人敎育會　は去る二十日午後一時一ツ橋外第一高等中學校講義室に於て開會し大鳥圭介、棚橋一郞兩氏の演說ありたる由。

○婦女の受付掛　東京慈惠醫院にては從來の受付掛を廢し試に看護婦中より撰拔して之に任したるに來院者に對して頗る懇篤なるより以後は成るべく婦人を以て諸務に任ずる筈なりと云ふ。

○幸田延子　は音樂(バイオリン)修業の爲め滿三ヶ年米國及び英國へ留學を文部省より命ぜられたり。

○東京男女洋服裁縫專門學校　芝區愛宕町二丁目の同校にては去る二十日東京商工會議事堂にて設立一周年の祝ひを兼ね卒業證書授與式を執行せり而して女子部の卒業生は左の如くなりしと云ふ。

原田ますゞ子、大橋すみ子、磯みつ子、稻垣隆子、秋葉との子、内田のぶ子、渡邊きん子、

○滋賀縣產婆協議會　滋賀縣管内にある内務省免許の產婆十三名は去る十四日彥根の樂々園に於て協議會を開き醫師中島宗達、岡島謙、上田安常、三氏の臨席を請ひたるにより中島氏は一席の演說をなしたる由。

○兵庫縣下の結婚幷に離婚數　兵庫縣管内に於ける昨年中の結婚者は一萬千八百三十四人にして離婚者は三千五百九十三人なりと云ふ。
○師範學校女子部　千葉縣尋常師範學校女子部に於て卒業せしもの十三名山梨縣尋常師範學校女子部に於て卒業せしもの十名ありし由。
○神戸英和女學校文學會　去月二十九日午后神戸英和女學校に於て開かれたる文學會大會の景況を聞くに英語、讀方、暗誦、文章朗讀、問答等ありて頗る盛會なりし由而して當期に改撰せられし役員は會長ギューリキ氏副會長吉浦貞子書記塚本不二子の三氏なりと云ふ。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○婚姻世話婦　米國にては此頃ろ婚姻の世話をすると一つの新らしき女職となれり之は婚姻に對するいろ〳〵の注意を與へ特に結婚の席の準備等に付て親切に世話をするとを務むるものゝ由。
○ブース夫人　ハーパース、バザールの編輯人にて總ての女記者中第一の給料を受取りたりと云ふ(年給八千弗)マリー、ブース夫人は此頃ろ死去せられたり。
○アメリカのフレーベル　と稱せらるゝサラー、クーパー夫人の主張する幼稚園事業は贊助を申込もの多く去年中ゴルデン、ゲートの人民丈にて一萬九千弗を寄附したりと云ふ。
○サンドハースト夫人　英國高等裁判所のクインス、ベンチ、ヂビジョンにてはサンドハースト夫人は倫敦府會議員たる被撰舉權なき旨を裁定せり。
○廢娼會　フランダ國にて今月三十日より以后三日間廢娼會國會を開くよし場所はアムスターダムのチボリなるよし而して之に集會するものは
道德の法則は男女ともに一樣なり、其外は一切自由なるよし、蓋し此の元則を守るものに限り、
遂に悉く廢娼を主張せざる可らず。
○出版書目　先月中官報を以て廣告せられたる書籍の中にて女子に關するものを擧ぐれば左の如し

女俠松竹梅	一冊	著作者 奧村玄次郎 / 發行者 山中勘次郎	京都
皇后宮十二德御詠	一枚		
竹取物語讀本	一冊	標注者 鈴木弘泰 / 發行者 伊河梅次郎	東京
子供の育方	一冊	著作者 土居辨次郎 / 發行者 原亮三郎	東京

小供談

不親切なる馬の話

宮堤子 譯

或時驢馬が重ひ荷物を負ふて友達の馬と一處に主人の伴を致しましたが餘り荷物が重くつて困つて居りました幸ひ馬は何にも荷物がありませんでしたから早速馬の傍に近寄り話すには馬さん、見れば御前さんは何にも荷物が無い樣だが何卒少し手傳つてくれまいか實に重くつて堪らないからドーゾと繰り返し賴みましたが馬は一向承知しませんから仕方なしに重いのを堪らひ足を曳きづり一町許り行きまするると倒れましたするど主人は大層驚き色々介抱致しましたが憐れにも驢馬はトートー死んでしまいましたそれで主人は荷物を悉皆馬に載け其上驢馬の死骸を載けました。

今迄荷物もなく大層樂をして居りました馬は俄かに重い荷物を負はせられ苦しい目をせねばならぬ樣になりましたから前きに驢馬の賴みを聞かなんだのを大層後悔して言ひまする樣斯樣重ひ目をするのも皆自分の不親切の報で仕方がないが若し私しが驢馬の賴んだときに尋常に手傳つたならば驢馬も死なゝかつたろう又私しも斯樣な目に逢はなかッたもの實に惡いとをした私は友達を死た實に罪なとをしたと頭を垂れさも悲しさうな風をして主人の伴をして行きました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○語格は。一段切れの歌にて。四の句のさしもしらじなにて切れたり。さてもゆる思ひをと例の上へうち返したる格也。此のしらじなといふ詞は。實はじにて切れたるをなといふ押への辭を添たる也。是は俗言にもソウデアルマイナア。カウデアルナア。アノナア。などいふ常のナアと同じ意であります。

藤原道信朝臣

道信は。恒徳公爲光の四男也。從四位上左中將。又權中納言たりしが。正暦五年二十三歳にて卒りし人であります。榮花物語には。粟田關白道兼公の養子となるよし見ゆ。大鏡には。權中納言道信の君は。いみじき和歌の上手にて。心にくき人にいはれ給ひしほどにうけ給はりにき云云。と見えたり。一條天皇の朝の人であります。

あけぬればくるゝものとはしりながらなほうらめしき朝ぼらけかな

此の歌は。後拾遺集戀部に載せて。詞書に。女のもとにまかりてつとめてつかはしけるとて歌二首あり。かへるさの路やはかはるかはらねど解くるにまどふ今朝のあは雪。又今一首は此の歌也○あけぬればは。明けたがマアソコデ也○なほは。俗ヤハリ也○朝ぼらけは。あさぼからあけの約言也。夜の明けはなれた時分をいふ也○一首の意は。夜が明けたがマアソコデ又日が暮るに極てあるものとは知りながら。ヤハリ恨めしい朝ぼらけヂヤナアと云て。愛戀の情の切なるまゝに。夜が明くれば又日がくれて再び逢るゝと云ふ道理も忘れて。まづ眼前に女の許より別れて歸るつらさを歎きたる也○語格は。一段切れの徒の結ひの格にてかなといふ辭にて結びました。

右大將道綱母

道綱母は。東三條入道關白兼家公の室。藤原倫寧の女。本朝古今美人の三人の内也と八雲御抄にあり。大鏡云。二郎君は(右大將道綱の事也)陸奧守倫寧のぬしのむすめの腹にておはせし也。道綱ときこえて大納言までありて右大將かけ給へりき。御母はきはめたる歌の上手におはしければ。此殿の(關白兼家公也)かよひたまひけるほどのこと歌などかきあつめて蜻蛉日記と名づけて世にひろめたまへり云云。とありて。今も世にめでらるゝ蜻蛉日記は。此の道綱母のかゝれたる日記であります。紫式部と大かた同時の人であります。

なげきつゝひとりぬる夜のあくるまはいかに久しきものとかはしる

此の歌は。拾遺集戀部に載せて。詞書に。入道攝政まかりたりけるに門をおそく明ければ。立わづらひぬといひ入れて侍りければ。よみて出しける。とあります○なげきつゝは。歎きつ〳〵と云こと也○ぬるは。寐也ねるといふは俗言也○かはしるは。かァ知ルナラムといふ意也。上にかといふ疑ひの指辭あるときはナラムといふ詞を添へて解する例也○一首の意は。たま〳〵門を引きあくるのがおそかりしとて。公はその間さへ立わづらひたとのたまへど。妾は公の來たまはぬ夜は。歎きつ歎きつ獨り寢て何時でも待ち奉ることであるが。その獨寢る夜の明る間のながきとは。どのやうに久しき物とかァ知り給ふナラム。御存じはありますまいが。少し御察し下さりたいと也○語格は。一段切れの歌にて。物とかはのはが指辭にて。しるといふ詞にて結びたる格であります。

儀同三司母

是は中關白道隆公の室。高階成忠の女也。故に高内侍ともいへり。作者部類に。前掌侍貴子とあるはこの人也。伊周公の母なるを以て儀同三司母といふ也。儀同三司とは。三司に准ずるの義也。三司は三公也。伊周公は内大臣なればしかいへる也。此人は。大鏡に。まことしき文者にて御前の作文には。文たてまつられしはとよ。とありて。紫式部。右大將道綱母と。大かた同時の人であります。

わすれじの行末まではかたけれどけふをかぎりのいのちともがな

此の歌は。新古今集戀部に載せて。詞書に。關白道隆かよひそめ侍りけるころよめるとあります○わすれじは。俗ワスレマイ也。此所はわすれじといふ體言に用ゐたる也○もがなは。例の願ひの詞也○一首の意は。互に末長く忘れまい忘れはせじと堅く約束はすれども。行末迄その通りには如何あらん。ドウモ男の心は頼み難い事である。されどかく約束をした今はの際は決して心變りはしまいから。このまゝに我命が絶たならよい。イッソ今を限りに此の睦ましき仲のうちに死にたいものヂヤと也。いと哀の歌なれど女の眞情はさも有べきとならん○語格は。一段切れの歌の徒の格にて。指辭なしよもがなといふ辭にて結びました。

第十、衣服並地質のこと

と愛兒と共に味ふときは又た無限の幸福其中に籠りてあるなり。

第十　衣服並に其地質

此節にて裁縫のこと編物のこと衣服地のことなど說かんと心組みたりしも、そは別に通信女學の一部として其道にくわしき人の講義の出づるよしなれば茲には省きて次の章に移るべし

食物表

重に肉となる食物		重に温を與ふる食物	
動物	植物	動物	植物
獸肉	小麥粉	牛酪	砂糖
魚肉	オートミール	凝脂	澱粉質
乾酪	米	油	糖蜜
鷄卵	豆類	豕脂	
	大麥		

日光の必要なること

第二章　住宅のこと、室を暖めること、掃除のこと、空氣の流通のこと、洗濯のこと。

第一　住宅並に家事のこと

空氣、日光、温暖、乾燥、水質、淸水、以上六ッの事柄は新規に家宅を建築するときは勿論、借家するにもよく〳〵取調ぶること肝要なり、此六ッの箇條さえよく具備して居れば家は少しは狹くとも健康に害なし、そして此六要件は唯地位の宜しきを擇ぶときは自づから備はり來るなり、さる處に少し愚鈍の小童ありける、薔薇花を愛して、或る年一株の薔薇を植へ、澤山に花さかせんものと、毎日水を漑き肥料をせり、注意至らざる所なかりしが一向成育せざるも道理、右の小童は日陰に植へたれば太陽の熱を受けざりしゆえ成長せざりしなり、人間とても生れ落ちてより暗室に閉ぢ籠め一切日に當てずに置きしなら、假令へ如何程滋養分ある食物を與ふるも、生長覺束なし、顏色青白く、活氣なく、食慾不足にして、絕えず病氣ならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

濕氣害のこと

日光の充分通らぬ家に入ると、濕つぽく且つヴッとする樣なる心地するものなり、なぜと云ふに室の暖かいのは重に日光の當ると否とに關はる、北向の壁の濕ぽいのも同じ理合なり、然し家に濕氣あるは唯日光の當らぬと云ふ源因ばかりでなく、一躰濕氣のある位地にある故なることあり、此の如き家に住する人は、脚氣、リオーマチス、寒冒、熱病、瘧などに罹る恐あり、新しく自宅を建てんと思ふときは是非高燥にして日當りのよき地面を撰まざる可らず、若し高燥な地面なく止むを得ず濕氣ある地面に建築せねばならぬ場合は、別に持土して地盤を高くするか、又は基礎を高くし床の餘程高くなる樣建つべし、或はよく水窨をつくれば大に濕氣を減ずることを得べし。

不潔物のこと

水窨の注意幷に良水の必要なることに就ては後章に説くべければ、爰には唯一言不潔物のことを申し置くべし、水窨もよく、日當より空氣の流通に至るまで申分なしと雖ども、近所に不潔物の多量に蓄積し居る樣なる場所には決して住宅を建築すべからず、不潔物の有害なる理由は多量の有害なる瓦斯を生ずるを以てなり、よく死人の祟とやらにて其家に來り住む人ごとに病氣になるなどと世に言ひはやしたることは多く此の如き源因より生ぜし病氣の如し、初め其家を建築せし人が極めて衛生のことに不注意にて沼池の如き地面をうめて充分乾かぬ中に家を建てしか、或は大なる坎溜ありし所に建前したる等のことより、惡氣常に蒸發して床より室内に滿ち住む人ごとに病を引出すと云ふ樣になり、さてこそは之を怨靈の祟などと云ふに至れるなり。

一家族の住む家は少なくも三間はなからざる可かす、一室に多人數一所に寐るは實に怖るべき有害のことなり、後に悉しく説き申すべきが、一室の空氣には限りあり、夜之を閉ざして寐るときは、新鮮の空氣は暫らくにして吸ひ盡し、果ては互に人の吐き出したる空氣を吸ふに至るべし、人の吐き出したる空氣を吸ふばかりなれば未だしも也、然し其害たる實に怖るべし、朝起きたるとき心氣沈

深川君と本所娘

なれり、更に一例を擧げんに茲に深川君あり、多血膽汁無色液質の複性にして本所娘と云ふ多血膽汁質の婦人を妻としたり、良人無色液を有ち妻君之を欠く、則ち妻君純粋の活質にして良人三分の一だけ不活質なれば此婚姻は合性の理に適へり、然るに數年過ぎ良人商業に失敗し家宅地面より渾ての財産を失い以前に變り貧しき生計を爲さゞるを得ざる位置に達せり、しかのみならず婚後幾ばくならず生れたる兒は誠に强健なれども、困難後出生したる兒は直に死するか或は病身にて、外に在ては事業失敗し内には病兒あり、あゝ斯くも運のつきたる者かなと打歎かるゝならん。

防ぎ得べき性の變化

右等は皆防ぎ得べき變化なり、若し夫妻何れにても餘り無色液の發達する樣に覺えたらば勞働を要する職業を執るか或は運動を務むべし、さすれば無色液の身躰に蓄積するを預防し得べし、若し頭大質の徴候を現ずる氣味あらば速に戸外にてする職業或は身躰を使用する職業を取り且つ肉食すべし、かくせば不活質になるを防ぐべし。

茲に前と反對なる場合あり、初め婚姻せしときは双方の性合はざりしかども、數年たちて双方或は一方の躰質に變更あり、遂に合性の夫婦となりたるときなり、此の如き夫妻に於て實驗するに最初は全く兒なく後に生れたる兒も孱弱風前の燈の如く生れて幾程も經ず死し、三四年して生れたる兒は壯健にして能く生長すると屢なり、吾人は斯くの如きことの起るを望むものなり、然し夫妻は常に同居し居るものゆえ何か他に事情あらざるときは却て双方の性も相同じからしむる傾向あり、而して同性は合性の理の尤も忌む所にして異性の夫婦尤も宜し。

不合性の夫妻に告ぐ

不幸にして婚姻せらるゝとき合性の理に闇く、爲めに己れと同じ性の人と婚せし場合は双方共力して反對の性を發達する樣心掛くべし、双方共活質の孰れかを持つ時は一方は不活質の孰れか、則ち無色液か或は頭大質を發達せしむると大切なり、若しまだ年若の夫婦なれば良人の方に於て何か前腦を使用する職業を執るときは自づから頭大質の

性を發達せしむべし、若し又た父母の躰質より考へても無色液質の發達しそふなるときは烈しき勞働を避け生活を豐にし安逸にし居るときは必らず無色液を發達せしむべし、右の如き夫婦は宜しく前に述べたる不活質なるものは如何にして生ずるかの節を讀み給ふべし。

若し双方とも不活質の人にして殊に無色液を過分に有ときは孰れか一方勞働を要する事業を取ときは無色液を除き去り、合性となるべし、若し双方とも頭大質ある場合には孰れにて頭大質の少なき方活潑ある運動をなすとか或は勞働を要する職業に移るときは自然に食慾並に全身の活機盛になるゆえ活質を發達せしめ不活質を減ずる効あり。

已に夫妻となられたる方は合性の理に戻ることを發見したりとて、或はそれが爲め兒を生ぜぬとか兒が生育たぬからとて、早速離縁するなどと云ふは實に以ての外のことゝ考ふれば、前に述べたる方法に依り双方注意して合性になる様に心掛るより外に仕方なしされども未た妻なく夫なく是より一生の伴侶を定めんとする位置にある方々は充分心を合性のことに注がれて然るべしと考ふ、なぜと云ふに婚姻の當時合性なりしをいつまでも維持して往くことは合性ならざりしを合性にせんとするよりも餘程やさしいことなり、是は已に二十年三十年と夫妻となりをらるゝ方々の知り給ふことならん、兩人同じ屋根の下に住み同じ室の空氣を吸い同じ食膳にて食し大抵同じ種類の食物を取るものゆえ、躰質が年を經るに從ひ違ふどころか初め異なりたるものまでも段々と似るに至るなり、されば婚姻の當夜誰も新郎新婦相似たりと申ふす人なきも夫妻となりて數年暮すときは夫婦未た一人たりし時の知友が「誰れ某は誰れと夫婦となりてより餘程互に似たる樣あり」と云ふに至ることあり。

博士パウエル君は總ての性を順次に排列して何れの性と何れの性と合性なるやを指示されたり、吾人は今之を引用し以て此章を終るべし。

一　多血質

二　膽汁質

●生徒募集廣告

本館に於ては臨時豫備科を設け次學年に入るべき生徒の準備をなす望のものは至急申込まれ但束修を要せず本館の學科は和漢學英語佛語獨語伊太利語音樂畫學料理法裁縫編物等にして教頭マーサ、ヲルドリッチ孃及内外國教師數名共授業を擔任す

第四月

麴町區上六番町十七番地

開成女學館

香川新報

壹枚一錢二厘〇一ヶ月前金二十二錢〇三ヶ月前金六十錢

廣告料一行に付(五號二十字詰)一日金二錢五厘〇同三日以上一割引七日以上二割引〇一日十行以上一割引〇三十行以上二割引にて以上一切前金拂込みの規定なり

四月十日第一號發兌引續き月曜日及大祭祝日の翌日を除き毎日發刊〇東京大坂に特別通信員を置〇毎號内外各地電報掲載

〇迅速正確の報道を主とす

發行所 香川縣高松南新町七十八番地 **香川新報社**

同志社寄附金(四月二十五日迄)

金貳拾圓	越後國南蒲原郡傍所村	高橋善作
同參圓	東京小石川區小日向臺町	淺井柞子
同三十錢	駿河國靜岡市	芙蓉峯仙史 芙蓉峯女史
同十錢	肥前國養父郡中原驛	藤井初
小計	金貳拾參圓四十錢	
合計	金四十七圓九十錢	

交詢案内

(催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ)

●雇はれたき方(乙)

六	奉公	地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇ハれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし
七	裁縫	年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇ハれ度き者あり華族様か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
十三	教師	栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む
一九	召使	裁縫の教授を專にし其他女子學校等監督兼留守居様の者に雇はれたし
二〇	裁縫	年齢十四五才にて華族様か或官員方の御方之内ゝ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受
二四	奉公	年齢廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族様か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇はれたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて(年齢二十二才)産婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ余暇に産婆術を學び度ものあり

西洋女大學

内大臣從一位三條實美公題辭
技藝學士末松謙澄君序博士イビー君夫人序
英國ラトクリッフ夫人著日本片岡信譯

上下二冊假綴正價三十錢
合本一冊本綴正價三十五錢
郵稅十錢

上篇目次●婦人談話の心得●婦人時間の用ひ方●女子勤勉の事●家政の心得●他人に對する行儀作法
下篇目次●婚姻前の心得●婚姻後の心得●結婚者の快樂●育兒法教育法●良人撰び方●服裝の事

日本橋區通三丁目 **丸善商社書店**
神田區宮本町 **叢書閣**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●普及福音教會叢書●

リツフ著

（四）家内禮拜論　定價金六錢
（五）聖書引用便覽　郵稅金六錢

●家内禮拜論は家族の道德を高め其和合を保ち罪業の侵入を防ぎ青年の立志を確め其家をして新教的家族たらしめんには家内禮拜の一日も缺く可からざるを説き之に反するに諸説を擧げて一々之を駁正し又如何して家内禮拜を行ふべきか其方法を丁寧指示したる者にして基督教的の家族を有せんとする者は宜く一讀すべきなり

●聖書引用便覽は安息日教會降誕祭献堂式死者記年祭離別氣戰爭飢饉流行病豐年決斷に苦むとき結婚誕生旅行大業を成さんとして心弱きとき神に從順を求むるとき等數十種に分ち凡ろ人生の遭遇に應じ渇望する心事に恰適する所を聖書中より隨意に引用するを得せしむる者にして乃ち聖書の光を應用して人生の行路を照らさしむる便書なり

賣捌所

東京神田區裏神保町一番地　敬業社

師範女生徒召募廣告

東京高等師範校女子部受驗生此期入學濟之者有之倘二十五名ノ寄宿生ヲ召募ス志願者ハ至急申込アルベシ　但地方ヨリノ寄宿生ハ從前ノ通リ該校ニ於テ一切保護ノ責ニ任ス

〇年齡〇從十三年至二十年
〇學力〇小學高等科卒業者及同學力ノ者
〇學費〇授業料金一圓〇食費金三圓

東京小石川區小日向臺町一丁目五番地
私立 長榮女學校

發兌

四月。	六日	十三日	二十日	廿七日
五月。	四日	十一日	十八日	廿五日
六月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
七月。	六日	十三日	二十日	廿七日

定價

一册。六錢　郵稅。一錢（但府内無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

廣告

一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を蔽する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂〇同芝西久保櫻川町萬春堂〇同神田區雉子町團々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新葭町眞明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本郷區元富士町盛春堂〇同本郷區春木町二丁目解明堂〇同本郷四丁目文春堂〇横濱住吉町角田屋貞〇同太田町三丁目萬字堂〇同日月堂〇同本町六丁目日の出屋〇京都四條通小橋西へ入澤集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版社〇出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎酒屋町虎與號〇江州彥根西内大工町新々堂〇相州小田原綠町石春堂〇上州高崎田町煥乎堂〇土佐國高知本町三丁目樂園堂〇熊本文明堂

明治二十二年四月廿六日印刷
明治二十二年四月廿七日出版

東京京橋區日吉町八番地
發行所　女學雜誌社

東京京橋區日吉町八番地寄留
編輯兼發行者　巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷者　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1,69 six months, *yen* 3,12 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY